



EXPO2005 AICHI だより 11

2001年(平成13年)1月24日号

No.

す。 今後は、国内外への参加招請を進めつつ、各方面からの意見を聞きながら内容の充実を図り、21世紀の最初にふさわしい魅力ある博覧会をめざして努力していくま

12回理事会・評議員会では、登録承認された内容を報告し、了承されました。

その後、12月19日に行われた第8回理事会と海上地区(瀬戸市南東部)園地区と海上地区(瀬戸市南東部)を合わせた展示施設面積の合計が87・772m²から97・772m²になりました。

その結果、会場管理区域の面積をBIEの定義に基いて、昨年9月19日の登録申請時の182haから173haへ、また、外国政府館の面積を1万m²増やし、青少年公園地区と海上地区(瀬戸市南東部)を合わせた展示施設面積の合計が

BIE総会に先立ち、11月に調査団が来日し、会場の視察、博覧会関係者との実務協議、市民団体等と意見交換を行い、展示施設面積等の調整が図られました。

昨年12月15日にパリで開催された第128回BIE(博覧会国際事務局)通常総会において、2005年日本国際博覧会(愛知万博)が満場一致で登録承認されました。

**BIE 博覧会国際事務局総会で
みなさんとともに魅力ある博覧会をめざします。
愛知万博を正式に登録承認。**



BIE旗を掲げる(左から)ロセルタレスBIE事務局長、ノグスBIE議長、松田岩夫通商産業総括政務次官(役職名当時)豊田章一郎博覧会協会会長、神田真秋愛知県知事

地元でも拍手と歓声。

パリのBIE総会開催と同時進行で、12月15日夜に名古屋国際センターで登録報告会が行われました。愛知県、関係自治体、経済界、NPO、協会関係者など約350人が集まり、パリから「登録承認」の電話が入ると、参加した出席者から大きな拍手と歓声があがりました。



CONTENTS

- BIEで愛知万博を登録承認 1
- 愛知万博会場計画図 2 ③
- EXPO 2005 トピックス・④ ⑤ ⑥ ⑦
- ハノーバー博閉幕イベント BIE調査団来日
- ハノーバー博セミナー開催 ハート・ハーモニーコンサートキルト設立準備委員会発足 愛知万博検討会議
- エコパリュー アイディアとパートナー募集
- 里山エコスクール実施 鬼かわらコンクール
- 開幕1500日前イベント 8

愛知万博会場計画図

平成12年12月15日現在

登録承認の概要

博覧会の名称	「2005年日本国際博覧会」 (略称「愛知万博」「EXPO 2005 AICHI」)
開催期間	2005年3月25日(金)から9月25日(日)まで
テーマ	「自然の叡智(Nature's Wisdom)」
サブテーマ	「宇宙、生命と情報(Nature's Matrix)」 「人生の"わざ"と智恵(Art of Life)」 「循環型社会(Development for Eco-communities)」
会場	瀬戸市の南東部、長久手町の愛知青少年公園、豊田市の科学技術交流センター予定地で約173ha
展示・催事面積	約10ha
会場建設費	1,350億円
運営費	550億円
想定入場者数	1,500万人

会場計画の考え方

テーマである「自然の叡智」にふさわしい会場計画となるよう、以下のようなコンセプトに基づいて計画策定を行いました。

限られた造成地を最大限に活用し、自然をなるべく保全する会場計画とします。

森林の環境を生かし、多くの人々に自然を体感してもらうようにします。

建築は、地形を生かし、周囲の自然と調和した建築とします。

省エネルギー、新エネルギーの積極的導入により、CO₂の排出量を大幅に低減します。

可能な限りのモノや水の循環を行うと同時に、ライフスタイルや新技術の情報発信の場となる「ゼロエミッションを実感できる国際博」とします。



青少年公園地区はテーマゾーンや各国の公式出展ゾーンなど賑わいのあるゾーンです。公園内は新たな造成を極力避け、造成する場合でも既に利用されている場所に限ります。また、公園の将来計画と極力整合の取れた会場計画とするため、現在ある施設の利用等に努めます。



海上地区

15ha

海上地区は里山の自然を活かし、人と自然が交流するゾーンです。施設の建設は、最新の技術を駆使して土地の変更を極力避け、自然の保全を図ります。そして、愛知万博検討会議の合意内容を充分に踏まえ、自然界の摂理や人と自然のかかわりについて、体験し、学べる会場をめざします。

- 主要施設
 - デッキ等
 - 園路・広場等
(バックヤード)
 - 展示施設
 - 催事施設
 - 営業施設
 - 供給処理施設
 - 管理・サービス施設等
 - 既存施設
 - ゲート広場
 - 交通ターミナル等
 - 会場管理区域
- 森林体感ゾーン
- △ 古窯(現地調査済)

観客輸送の考え方

来場者に安全かつ確実な交通手段を提供することを第一に、周辺地域の長期的な交通基盤整備計画を踏まえて、以下の点に留意しながら計画を策定していきます。

公共交通機関の利便性、快適性を高め、利用を促します。また、主要駅からシャトルバスを運行します。

自家用車については、会場からおおむね20分圏内に数カ所の駐車場を整備し、会場までシャトルバスを運行します。

団体バスについては、会場に隣接して専用駐車場を整備します。

海上地区会場と青少年公園地区会場とをシャトルバスにより連絡します。

情報技術の活用等により、会場周辺における道路混雑の抑制に配慮します。

バスターミナルには、エレベーター、エスカレーター等を整備し、快適性と安全性に配慮します。

鉄道の利用促進、低公害バスの導入等により、環境の保全に配慮します。

その他、輸送ピークの平準化等総合的な対策を講じます。

(注)会場計画及び輸送計画については、今後、基本設計、実施設計等の過程で一部修正・変更が加えられる可能性があります。

「ハノーバーから愛知へ」 ハノーバー博の閉幕イベントでPRしました。

10/31

6月1日から5ヶ月間開催されていたドイツ・ハノーバー博は、10月31日に閉幕しました。この閉幕にあわせて、博覧会協会では次期開催の愛知万博をPRするため、各種のイベントを実施しました。

10月29日

BIE(博覧会国際事務局)との共催で、過去(大阪・セビリア等)・現在(ハノーバー)・未来(愛知)の博覧会関係者・代表者による国際シンポジウム「国際博覧会の成果」を行いました。



閉幕式



プラザステージのフィナーレ

10月30日

BIEデーの文化イベントで、西川流の日本舞踊を披露しました。

10月31日

閉幕式では、次期開催地愛知を代表して、神田真秋愛知県知事と豊田章一郎博覧会協会会長がBIE旗を受け取り、文化プログラムでは、愛知県在住のソプラノ歌手、下垣真希さんの歌が披露され、セレモニーを盛り上げました。

さらに閉幕ステージでは、ドイツと愛知の市民が共同製作したキルト作品「EXPO2005」の贈呈式や和太鼓奏者・林英哲氏ほかの勇壮な和太鼓の演奏などで愛知万博を大いにPRし、約1万人の観客から盛大な拍手を受けました。



11/9

BIE調査団が会場予定地を視察し、 実務協議を行いました。

BIEの調査団(ベルナル・テステュBIE執行委員長はじめ6名)は、11月9日に会場予定地である青少年公園地区(長久手町)と海上地区(瀬戸市南東部)を視察しました。

11月10日には市民団体等と意見交換を行い、10日、11日の実務協議で、通産省・愛知県・博覧会協会から会場が2つに分かれていることに伴う輸送問題、会場への交通アクセス、資金計画の詳細等について説明を受け、双方で長時間にわたり協議しました。



会場模型で説明を受けるBIE調査団



会場を視察する一行

ハノーバー博セミナーを開催しました。

11/29

11月29日に名古屋国際センター別棟ホールで「ハノーバー博セミナー」を開催しました。ドイツからハノーバー博の関係者を招聘し、世界プロジェクトや地域の取り組み、企業の取り組みなど、同博におけるさまざまな取り組みを紹介しました。

午前の部では、井上功博覧会協会国際グループ長による「ハノーバー博の結果概要」、博覧会協会企画運営委員で愛知県立大学教授の小栗宏次博士による「ハノーバー博と開催地域の状況について」、ハノーバー博公社世界プロジェクト責任者のクリスティアン・アレンス博士による「ハノーバー博の世界プロジェクトについて」が、それぞれ報告されました。

午後の部では、ラーツエン市市長のハウケ・ヤーガウ氏、母親SOSセンター代表のヒルデガード・ショース氏、ヴィルヘル

ムスハーフェン市助役のアルノ・シュライバー氏、DSD(包装容器リサイクル公社)のマルクス・ハイマー氏、ダイムラー・クライスラーのエックハルト・シートラウス氏によるそれぞれの取り組みに関する発表があった後、アーレンス博士、小栗博士を加えて、博覧会協会企画運営委員で中部リサイクル運動市民の会代表理事の萩原喜之氏をコーディネーターに迎え、パネルディスカッションが行われました。

満席の会場からも、多くの質問や意見が提出され、熱気を帯びた催しとなりました。



3000人の大合唱で 愛知万博の登録承認を祝いました。

12/17

BIE総会で愛知万博が登録承認された直後の12月17日に、ナゴヤドームでハート・ハーモニードームコンサート2000が行われました。

Heart・Harmony合唱団は、愛知万博での公演を目標とし、東海3県の市民を中心に構成された手作りの合唱団で、今回は3000人が参加しました。コンサートには歌手の谷村新司さん、ジュディ・オングさん、名古屋フィルハーモニー交響楽団も出演し、2万人の観客は美しい音色に酔いしっていました。

また、コンサートには神田真秋愛知県知事、松原武久名古

屋市長、豊田章一郎博覧会協会会長が出席し、「みなさんと一緒にって博覧会開催に向けて取り組んで行きましょう。」と力強いメッセージが示されました。



ナゴヤドームで熱唱する合唱団

自分たちの手で 「キルトパビリオン」を建設します。

12/19

「愛知万博でキルトの展示場を！」の声に賛同したキルターが、12月19日に「EXPO2005キルトパビリオン建設準備委員会」の発起人総会を開催しました。

愛知万博を国際文化の交流・生涯学習・次世代への伝承等を提案する場と位置付け、「キルトパビリオン」の建設費と運営費を全て自己資金で賄えるよう計画・準備するもので、資金援助等の活動は、キルターを中心としたチャリティーやボランティアで行われます。



委員会のみなさん



総会の模様

愛知万博検討会議が解散し、 4つの分野で方向を確認しました。

12/21

第13回の愛知万博検討会議（海上地区を中心として）が12月21日に行われ、愛知万博検討会議は今回をもって終了することになりました。

なお、検討会議解散後も愛知万博及び関連事業に関し、公開かつ市民代表が参加する形での検討が行われるべき分野として挙げられた4つの分野で、それぞれ進めていくことになりました。



第13回愛知万博検討会議

会議の最後にあいさつをする坂本春生
博覧会協会事務総長

1. 海上地区の会場計画のモニタリング

BIEに登録された海上地区の会場計画を極力自然に負荷をかけないで実現するために博覧会協会が実施する会場設計、工法等を検討するための委員会を博覧会協会が設置します。

2. 検討会議提案（旧委員長試案）のフォローアップ

検討会議の提案について、検討会議委員の自主的な行動で、年2回程度収集して進捗状況をチェックします。（博覧会協会は、そのため必要な情報公開、庶務的支援を行います。）

3. 海上地区の長期的な保全・活用

愛知県が「里山学びと交流の森検討会（仮称）準備会」を設置します。

12月22日に第1回の準備会が開催されました。

4. 市民万博としての広域展開万博の推進

登録会場外で愛知万博のテーマに関連するプロジェクトを推進する主体が情報交換を行い、連携を図るための会議の開催を検討会議委員の有志が呼びかけることになりました。（博覧会協会は、これらの広域連携を推進する活動を支援していきます。）

「エコバリュー」とは? アイディア及びパートナー募集中

博覧会協会は、ゼロエミッションを実感できる博覧会を目指しています。

ゼロエミッションとは、不要物を資源や再生品として活用するとともに、資源・エネルギーを効率的に使っていくこと、さらには有害物や、その可能性のある物質の使用をやめるなど、環境へ与える負荷ができるだけ少なくし、資源・エネルギーの生産性向上や生活の質を犠牲にすることなく維持・向上できる社会経済システムを実現することです。

そのためには、博覧会会場で環境について楽しみながら学べるように紹介するとともに、地域が一体となって活動を継続していくことが重要です。

そこで、ゼロエミッション達成のために、環境問題についてさまざまな思いを持っている人たち、博覧会の理念に共感する人たちが「エコ・コミュニティ」を形成し、取り引きさ

れればされるほど環境が良くなるコミュニティ通貨「エコバリュー（仮称）」を発行・流通させる試みをみなさん提案したいと考えています。

エコバリューの具体的な例としては、

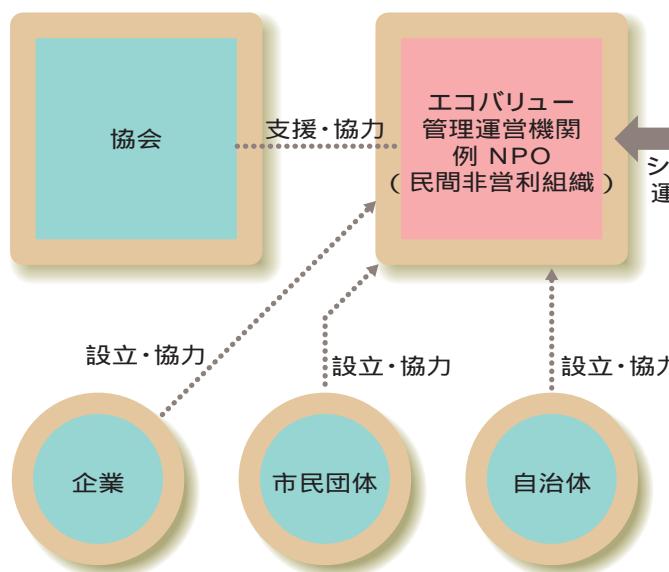
ある人が身近なところで清掃や植林といったボランティア活動に参加した場合、その活動に応じてポイント（エコバリュー）がもらえる。

もらったエコバリューに応じて、地域のエコショップでの割引購入や、博覧会会場内でエキスポグッズの優先購入などの特典が得られる。

個人、エコショップ、博覧会などをつなぐシステムを運営する主体をみんなが支える。

といったものが考えられます。

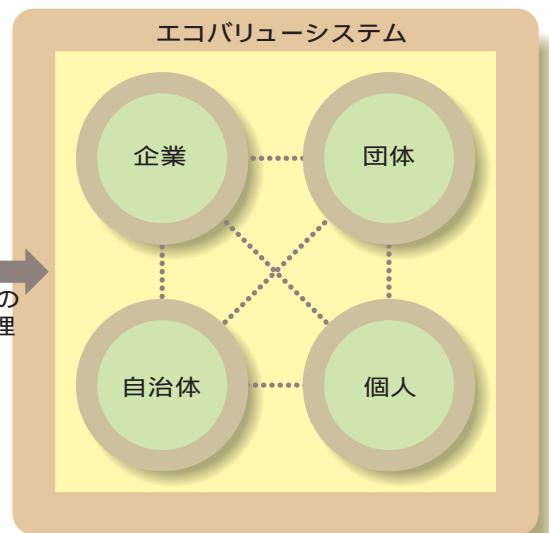
エコバリューのシステムイメージ図



このような取り組みが本格的に行われると、次のこと期待されます。

みなさんの力で社会全体での環境配慮が進みます。

個人個人が自分の力でできることに気づいたり、たくさんの人のネットワークが築けたりといった効果が得られます。会期中に会場内を中心とした取り組みがなされるのはもちろんのこと、会期前から会場の外で先行的にエコバリューを用いたさまざまな取り組みが用意され、それらは会期後もみなさんの手によって普及していきます。



エコバリューについては、これまで博覧会協会の環境プロジェクトチーム・ゼロエミッション部会を中心に検討を行ってきました。

今後は、より多くのみなさんからアイディアやご意見をいたくとともに、会場内外、会期前・中・後を通じて、エコバリューを実際に普及していただくために**アイディア及びパートナーを募集します**。環境のために何ができるか、一緒に考えてみましょう。興味のある方はお電話下さい。

締切/平成13年2月28日(水)

エコバリューについてのお問い合わせ

(財)2005年日本国際博覧会協会 環境グループ環境計画チーム TEL 052-569-2153

里山エコスクールを実施しています。

里山エコスクールは、身近な里山と関わることによって、愛知万博のテーマである「自然の叡智」に触れ、自然の大切さを学び、里山の自然を保全していく気運を高めていくことを目的としています。

構成は、環境問題の視点からの体験を通して、複数名のグループメンバーで学ぶスクール形式で、子ども向けスクールと、大人向けスクールの2本立てです。子どもの「里山エコスクール」は年間で3回行い、「里山の手入れ」「テキスト」「リーダーによる運営」の3本柱が骨格になっています。また、大人の「おとの里山がっこく」は年間で4回行い、「里山の手入れ」「手引き書(達人)」「物づくり」の3本が主な骨組みとなっています。



"おとの里山がっこく"in定光寺のもり

日程

里山の手入れ&物づくり

『小屋をつくる』 雜木林の手入れ 小屋をつくる
(1月21日)(予備日:1月28日(日))

『草・木を食べる』 林床植物調査 野草調理
(3月18日)(予備日:3月25日(日))

『桧をまとう』 間伐、除伐 桧がさ作り
(5月20日)(予備日:5月27日(日))

『森でもてなす』 雜木林の手入れ 森のレストランでパーティー
(子どもプログラムと合同)(6月3日)(予備日:6月24日(日))
申し込みは終了しました。

"里山エコスクール"in定光寺のもり

日程

里山の手入れ - プログラム

『竹林の手入れ』竹林調査(照度測定、密度調査) 竹林伐採
竹材の確保と笹茶作り(2月18日)(予備日:2月25日(日))

『竹林の生きもの調べ』竹林の植物 動物調査 竹工作

(4月15日)(予備日:4月22日(日))

『森のレストラン』 クッキング 食器 什器作り

(おとなプログラムと合同)(6月3日)(予備日:6月24日(日))
締切及び定員

締切は平成13年2月8日(木)。FAXかe-mailでお申し込み下さい。
定員は20名。申し込み順にて定員になり次第締切。原則として3回とも参加できる方、小学校4・5年生(申し込み時)を対象にします。参加費無料。

お申し込み及びお問い合わせ

(財)2005年日本国際博覧会協会 市民参加促進グループ

TEL: 052-569-2101 FAX: 052-569-2100

e-mail: kitamura@expo2005.or.jp

ミレニアム鬼かわらコンクールで表彰しました。

地場産業の瓦への認識と伝統文化への関心を深め、日本の文化的財産を次世代へ継承していくことを目的とする「鬼かわらコンクール」が開催されました。

このコンクールは、ミレニアム鬼かわらコンクール実行委員会の主催により行われ、作品のテーマは「海上の森の鬼かわら」です。

人と自然が交流する会場をめざす海上の森に、瓦を使った空間を提供しようと多くの作品が出展されました。

授賞式は、11月3日に名古屋市中区のナディアパークで行われ、厳選な審査の結果、名古屋市の主婦、小林栄子さんの「波から生れた鬼」が2005年日本国際博覧会協会賞に選ばれました。



博覧会協会賞を受賞した小林栄子さん



「波から生れた鬼」

